

—取り返しのつかない喪失感の中から抜け出るためには—

今日は新年度初回の朝礼です。今日は一見関係なさそうなことですが大変大切な考え方なのでお話ししてみます。最近ある方が「災害医療は難病医療と同じ」と言っていました。何が同じなんだということで、それとなく読んだのですがその内容は大変勉強になることでした。ヒトの生き方人生の考え方、人生哲学のような考え方として万人に共通することではないかと思われました。(週刊日本医事新報 No4898,2018/3/10)。

魂さえ揺す振る絶望感・取り返しのつかない喪失感は東日本大震災の時のように誰にでもいつかは起き得る事ですが、もしそれに陥った時に、自分はどうか、或いはその相手にどう向き合うか、は大変重要なことで、万人の人生哲学にも通ずる事です。難病医療も同じだとその方は言います。

その考え方はその喪失感に向き合った時に役立つことで、特に私たち介護という職業についているものにとっては理解すべき必須のこととも思います。若さは取り戻すことが出来ません。

「行く川の流は絶えずしてしかももとの水にあらず」とは鴨長明の方丈記の書き出しですが、その心でもあります。キューブラー・ロスによる死の受容の5段階モデルも同じです。緩和ケアという言葉は癌治療の中から出てきた考え方ですが最近では癌だけでなく心疾患についても言われるようになってきました。それは「人生の最終段階の医療介護」あるいは高齢者医療介護にも共通することで、みな心は同じです。

緩和ケア≡喪失ケア≡ターミナルケア≡自己存在の意味の再構成への支援≡再構成の能力回復への支援≡生き甲斐の再構成など、色々言い方が違いますが、コアはスピリチュアルペインに関する事でそれぞれ意図するところはほぼ同じです。そして喪失感から抜け出るのは本人しかできません。周りは傾聴し支援することしかできません。

健康の概念も心身的社会的に完全に良い状態という従来の WHO の定義では高齢社会ではもう不十分の時代に入っていると言います。大きな問題に直面した時にも「柔軟に自らやり繰りする能力」こそが健康ということだと言います。ハンディキャップは個性だと言われる由縁です。

老人保健施設一羊館の理念

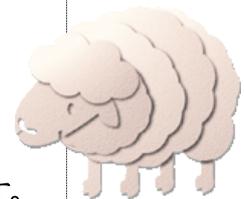
利用者の方々すべてに尊厳・安心・満足を！

一羊館の行動指針

私たちは、保健・医療・福祉の架け橋のプロに徹します。

私たちは、利用者の QOL・職員の QOL・健全経営の 3 立を目指します。

私たちは、質向上のために日々の小さな工夫を忘れません。



話し合いの 3 原則：

- ①相手の意見は決して否定しないでしっかり聞きます。
- ②自分の意見はしっかり言う。ポジティブ表現で言います。
- ③正解は一つではないことを自覚して自制します。